

★ 麦類 赤かび病 情報

今後の気象は高温多雨傾向で、防除適期が平年より早く、
また、赤かび病の感染リスクが高まっています

麦類の赤かび病(写真1)に対する1回目の防除適期(赤かび病に感染するリスクが高い時期)は、二条大麦では葎殻の抽出期(写真2左、出穂期の14～16日後)、小麦では開花を始めた時期(出穂期の4～5日後)から開花期(写真2右)とされ、2回目の防除適期は1回目の1週間後とされています。

また、赤かび病菌の子のう胞子の形成、飛散(写真3)を促す気象条件は、①日最高気温が15℃以上、②日最低気温が10℃以上、③湿度80%以上か降雨直後とされています(図1)。

大阪管区气象台平成28年4月7日発表の「向こう1か月の近畿地方の気象予報」では、気温は高く、降水量は平年並または多いと予想されており、今後、麦類の生育(防除適期)が早まるとともに、赤かび病菌の子のう胞子の形成、飛散を促す気象条件が続く(図2)と考えられます。

現在、二条大麦の早生品種「サチホゴールド」では既に防除適期を迎えており、小麦の「農林61号」、「ニシノカオリ」の防除適期も、平年より早まる見込みです(表)。晴れ間を見計らって、適切に防除を実施してください。



写真1 赤かび病(矢印、小麦)

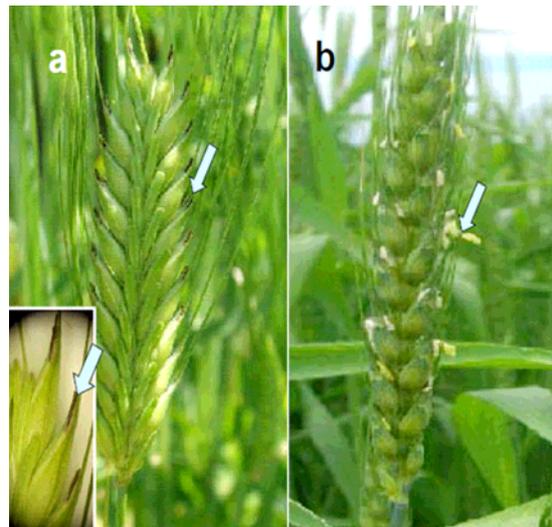


写真2 麦類の防除適期(1回目)

a: 二条大麦の葎殻の抽出(矢印、左下:拡大写真)
b: 小麦の開花(矢印)

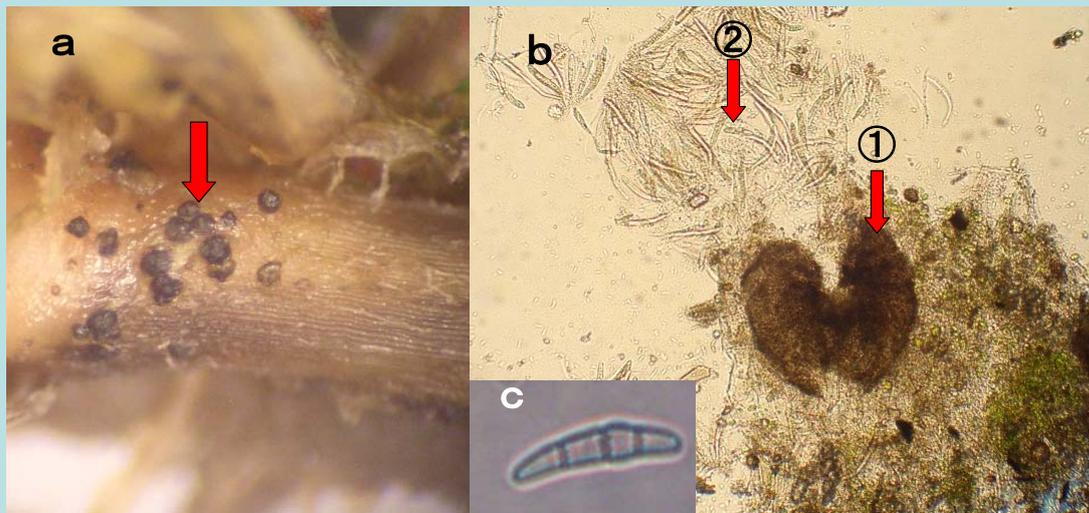


写真3 麦類赤かび病菌の子のう殻と子のう胞子

- a: イネ科植物の残渣上に形成された子のう殻(矢印)
- b: 子のう殻が破れ(矢印①)、噴出した子のうと子のう胞子(矢印②)
- c: 孢子採取器内のスライドグラス上に採取された子のう胞子

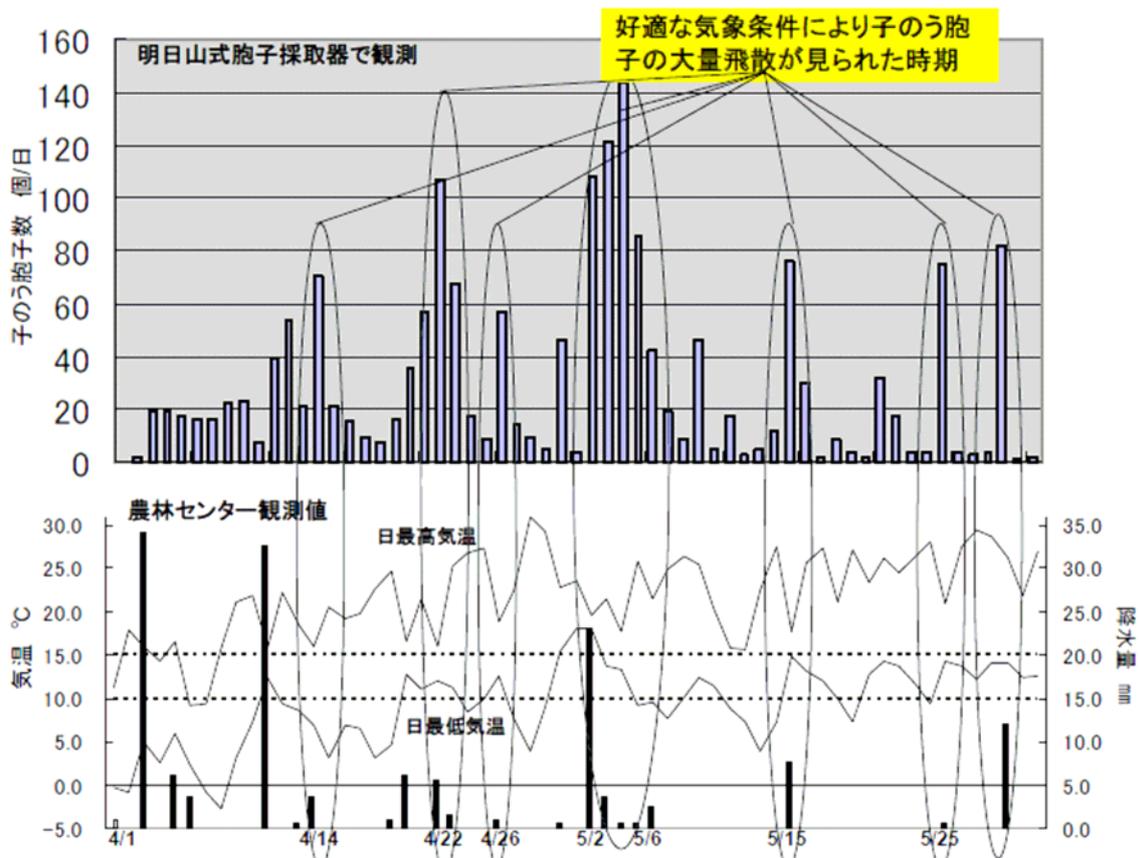


図1 麦類赤かび病菌子のう胞子の飛散数と気象条件(H24年、農林センター)

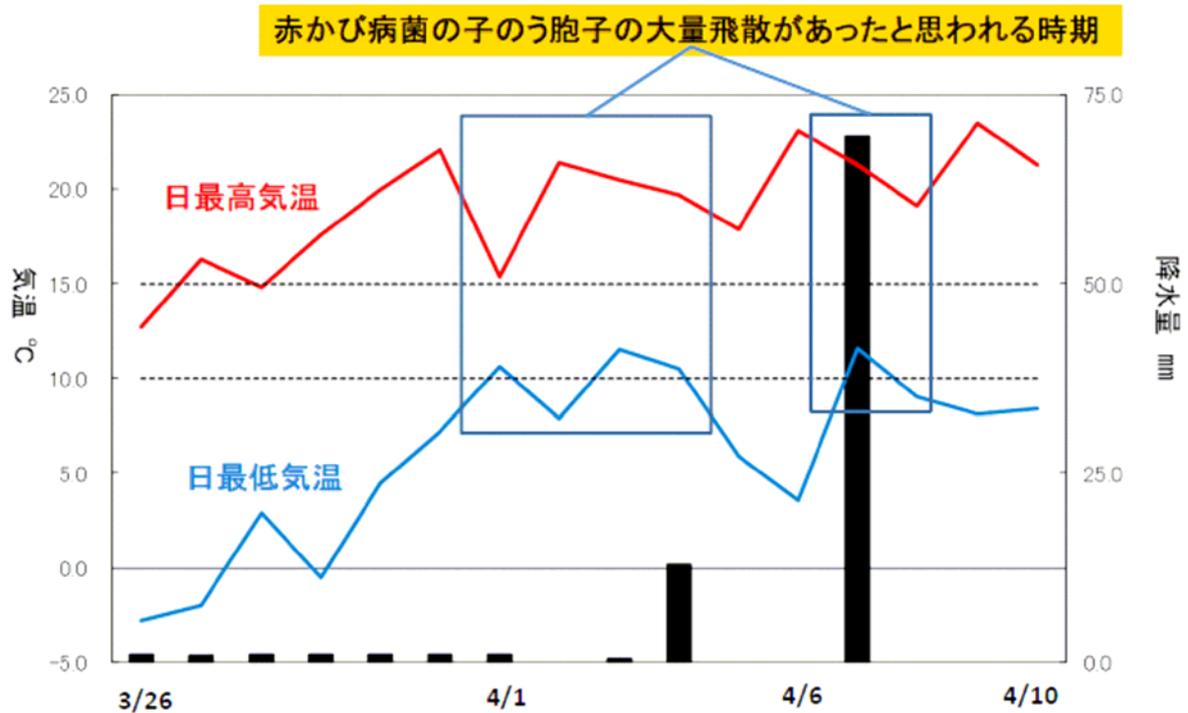


図2 平成28年3月下旬から4月上旬の気温、降水量(農林センター)

表 小麦の出穂期及び開花期の予測(11月13日は種)*

| 品種/場所 | 園部 | | 福知山 | |
|--------|--------------------|-----------------|------------------|-----------------|
| | 出穂期 | 開花期 | 出穂期 | 開花期 |
| 農林61号 | 4月20日 (4月30日)** | 5月2日 (5月10日) | 4月13日 (4月27日) | 4月25日 (5月7日) |
| ニシノカオリ | 4月18日 (4月27日) | 4月30日 (5月7日) | — | — |

*農研機構「小麦赤かび病を適期に防除するための開花期予測システム」(H28.4.11現在)

http://pc78.cgk.affrc.go.jp/wheat/index_mugi.html

**()内は平年値

防除上の注意事項

- (1) 出穂期、穂揃い期、開花期は品種、は種時期、ほ場の場所、栽培条件等で異なるため、出穂や開花状況をよく観察した上で防除適期を判断してください。
- (2) ほ場の水はけが悪いと生育・出穂が不揃いとなり防除効果が低下しやすいので、排水対策はしっかりと実施しましょう。